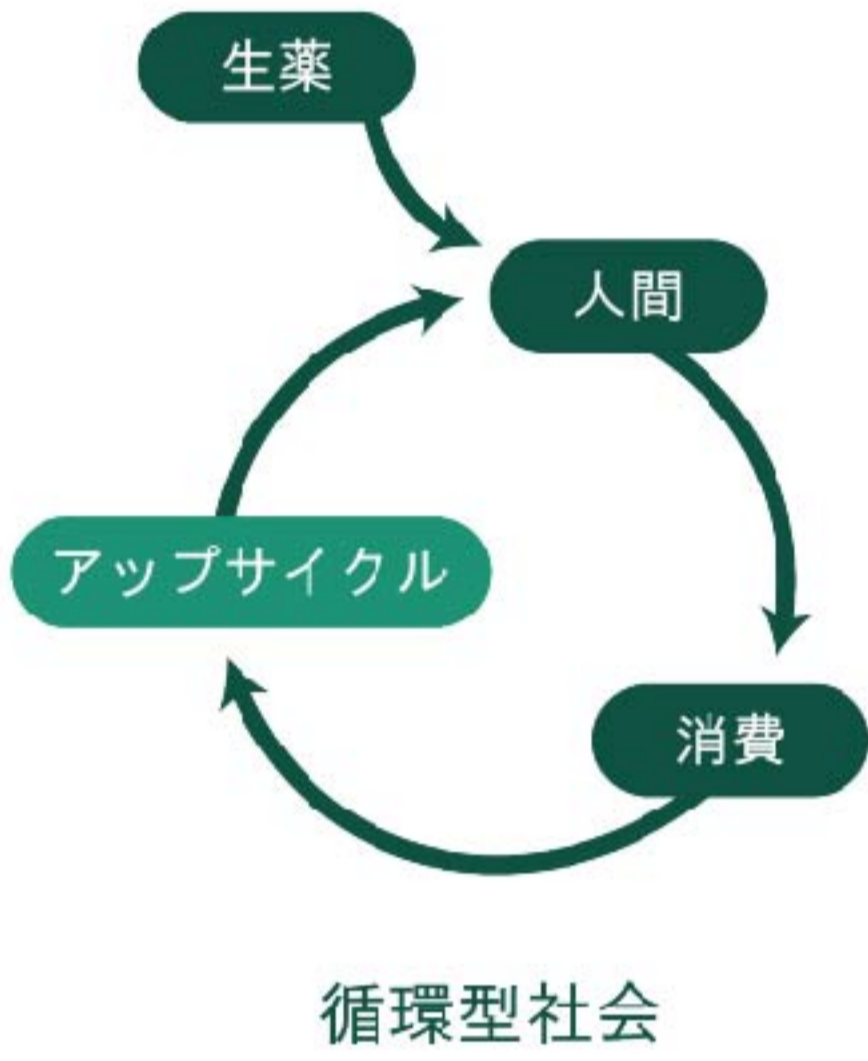


姫 晓珩
JI XIAOHENG



「生生」 生薬残渣のアップサイクルデザイン

生薬残渣、ウール、絹、キビツ、楮、再生パルプ、漆喰、水晶末、木材



「生生」——生薬残渣のアップサイクルデザイン

社会の発展に伴い、環境汚染と資源浪費はより深刻になっている。SDG（s 持続可能な開発目標）のNo.12とNo.13、No.14に該当するこの環境問題の中には生薬残渣の問題がある。私はこの問題に着目し、生薬残渣を廃棄せず、新たな価値につなげる。アップサイクルブランド「生生」（読み方：s e i s e i）を提案する。

「生生」の一つ目「生」はブランドの原材料、生薬の「生」であり、二つ目の「生」はブランドの核心部分の生薬残渣の再生を意味している。自然由来の生薬は人間が使った後にゴミにならずに新しい天然素材になる。

ロゴのデザインは最初の「生」の漢字から発想した。生薬残渣はとても長い歴史を持つ漢方生薬の「生」の漢字、大地から草が芽吹く様、つまり新しい生命をイメージする図柄が原点であり、「生生」ブランドを通して「新しい価値の再生」を感じてほしいと考えた。

「生生」のプロダクトは生薬残渣を再利用し、染色品、和紙、顔料、建材など生薬残渣の利用価値を拡大させた。また、さいせいひんに使用した素材は環境にやさしい、天然の生分解性材料である。

私はこのブランドを通して、漢方生薬の魅力と東洋文化を世界中に広げたい。また、生薬残渣量を減らしたい。